

日本特別ニーズ教育学会 第24回研究大会 二次案内



梅雨の最中、あじさいが色濃く美しい季節になりました。皆様におかれましては、お元気で
お過ごしのこととお喜び申し上げます。2018年度中間集會に引き続き、第24回研究大会も
大阪体育大学が開催校をつとめさせていただきます。今回の大会では、本学会が大切にしてい
てきた「特別ニーズ教育」を現在の子どもが抱える困難やニーズを通して再考するプログラム
を複数企画しています。プログラムや研究発表登録の詳細は、学会ウェブサイトにて随時お
知らせいたします。

大阪体育大学のキャンパスは、関西空港に近い熊取町の小高い丘の上に位置しています。
大学近隣にはホテルが少なく、大阪全域において観光客増によるホテル不足が生じています
ので早めのご予約をお奨めいたします。理事会等の諸般の事情により、例年の大会日程より
遅くなりますが、万障お繰り合わせの上ご参加くださいますよう心よりお待ちしております。

2018年6月27日

日本特別ニーズ教育学会第24回研究大会
大会実行委員長 後上鐵夫（大阪体育大学）

日 時

前日プログラム：2018年11月16日（金）

研 究 大 会：2018年11月17日（土）・18日（日）

会 場

大阪体育大学 熊取キャンパス

大阪府泉南郡熊取町朝代台1-1

JR 阪和線・熊取駅より、南海バス「大阪体育大学前行き」「つばさが丘北口行き」乗車

キャンパス内「大阪体育大学前」停留所にて下車

JR 阪和線・関西空港駅より

関西空港駅－熊取駅（約15分）

JR 阪和線・天王寺駅より

天王寺駅－熊取駅（快速約35分）

JR 阪和線・熊取駅より

南海バス利用（約15分） / タクシー利用（約12分）約1300円 / 徒歩（約50分）

*中間集會の会場と異なりますので、ご注意ください。

*駅からのバスの運行は多くありませんので、ご注意ください。

*自家用車でお越しの際は、本学構内の駐車場をご利用ください。



大会スケジュール

日 時	内 容	会 場	
16 日 (金)	特別ニーズ教育学を現場で探るスタディツアー		
9:30～ 11:20	大阪少年鑑別所・法務少年支援センター見学ツアー ①法務省大阪矯正管区第三部長 小林万洋 ②大阪少年鑑別所職員 ③大阪法務少年支援センター職員 <p style="text-align: center;">*参加者は事前申込、17・18日のうち1日以上ご参加ください。 *申し込み順、先着20名限定です。</p>	大阪少年鑑別所等	
13:20～ 16:30	貝塚市立東小学校 授業参観・公開事例検討会 ◆授業参観 (45分) 4年生を予定 ◆基調講演 (30分) : 「現代の子どもの生きにくさと特別ニーズ教育」 演者: 学会代表理事・東京学芸大学教授 高橋智 ◆公開事例検討会 (110分) コーディネーター: 学会理事・立命館大学准教授 田部絢子 登壇者: ①学会代表理事・東京学芸大学教授 高橋智 ②学会副代表理事・東京学芸大学教授 加瀬進 ③法務省大阪矯正管区第三部長 小林万洋 ④貝塚市立東小学校校長 深井利恵子 ⑤貝塚市立東小学校 特別支援教育コーディネーター 葎川?? <p style="text-align: center;">*参加者は事前申込、17・18日のうち1日以上ご参加ください。 *申し込み順、先着50名限定です。</p>	貝塚市立東小学校	
理 事 会			
16:45～ 18:30	理事会	貝塚市立東小学校内	
アダプテッド・スポーツワークショップ／交流合宿			
18:00～	車いすハンドボール／ボッチャ体験ワークショップ コーディネーター・講師: 大阪体育大学教育学部准教授 曾根裕二 <p style="text-align: center;">*参加者は事前申込、運動着持参(見学のみも可)</p>	第6体育館	
20:00～ (宿泊)	大体大キャンパスにて交流合宿 <p style="text-align: center;">*参加者は事前申込 *宿泊費1泊2000円(夕食・朝食は人数により調整)程度を当日支払</p>	学内セミナーハウス	
17 日 (土)	9:00	受付開始	L号館1階
	9:25～ 9:40	オープニングセッション	L号館3階
公開教育講座 (本プログラムのみ参加無料)			
	9:45～ 11:00	すべての子ども(大人)に届けたいパラリンピックの楽しみ方、学び方 演者: マセソン美季 日本財団パラリンピックサポートセンター 推進戦略部 プロジェクトマネージャー、長野パラリンピック金メダリスト コーディネーター: 曾根裕二 大阪体育大学教育学部准教授・パラリンピック日本選手団ボッチャコーチ	L号館3階
	11:00～ 11:40	休憩	

シンポジウム I			
11:40～ 13:30	<p>子どもの発達支援ニーズをどのように受け止め、支えるのか —学校と家庭が連携して子どもを支えるには—</p> <p>司会 学会代表理事・東京学芸大学教授 高橋智</p> <p>話題提供 ①堺市立三原台中学校教諭 藤井清司 ②昭和大学大学院保健医療学研究科准教授 副島賢和 ③NPO 法人ゆめのめ代表・管理栄養士・重症心身児保護者 大高美和 ④放課後等デイサービス職員・知的障害者保護者 夷子綾子</p> <p>指定討論 貝塚市教育委員会教育部学校教育課参与 和中克仁</p>	L号館3階	
シンポジウム II			
13:35～ 15:25	<p>子どもの発達支援ニーズをどのように受け止め、支えるのか —多様な生きづらさから子どもの発達ニーズと支援の鍵を探る—</p> <p>司会 学会副代表理事・東京学芸大学教授 加瀬進</p> <p>話題提供 ①貝塚市立第四中学校教諭 戸村康樹 ②和歌山県立和歌山東高等学校校長 山崎一生 ③関西福祉大学金光籐陰高等学校養護教諭・大阪私学カウンセリング研究会 的場恵美 ④法務省矯正局少年矯正課長 小山定明</p> <p>指定討論 相模女子大学教授 富田充保</p>	L号館3階	
ラウンドテーブル／若手チャレンジ研究会			
15:45～ 17:20	ラウンドテーブル（企画受付中）	P号館	
	若手チャレンジ研究会（若手会員企画）	P号館	
懇親会			
18:30～ 20:45	<p>懇親会（がんこ岸和田五風荘）</p> <p style="color: red;">*事前申込・事前支払制、会場の関係で先着60名限定です。 *大学から懇親会会場までバスにて送迎（バスはシンポジウム会場前17:45発）</p>	がんこ岸和田五風荘	
18日 (日)	9:00	受付開始	P号館1階
	自由研究発表		
	9:15～ 11:30	自由研究発表（演題受付中）	P・0号館
		卒論・修士論文・博士論文等デザイン検討会（演題受付中、非会員発表可）	P・0号館
	学会総会／学会奨励賞表彰式		
11:35～ 13:15	学会総会	P号館4階	
	学会奨励賞表彰式・授賞者講演	P号館4階	
課題研究			
13:20～ 15:20	<p>〔課題研究 I〕 マイノリティの視点からみた特別ニーズ教育 —「性同一性障害」に焦点を定めて—</p> <p>企画 学会理事・福岡女学院大学教授 猪狩恵美子 学会理事・札幌学院大学教授 二通諭</p>	P号館5階	

	司会 学会理事・札幌学院大学教授 二通諭 話題提供 ①日野由美 (GID 当事者) ②中川未悠 (GID 当事者) 指定討論 日本福祉大学准教授 伊藤修毅	
	<p style="text-align: center;">〔課題研究Ⅱ〕 改めて「特別ニーズ教育とは何か」</p> 企画 学会理事・茨城大学教授 荒川智 学会理事・東京学芸大学准教授 村山拓 司会 学会理事・東京学芸大学准教授 村山拓 話題提供 学会理事・東京学芸大学准教授 村山拓 学会理事・神戸大学教授 渡部昭男 指定討論 調整中	P 号館 4 階
15:25~ 15:45	クロージングセッション	P 号館 4 階
15:50	終了	

参加者へのご案内

1. 参加費・参加申し込み等

各自、郵便局にて送金の内訳など必要事項を「郵便振替用紙」に記入のうえ、諸費用を納入してください。納入された費用は、原則としてお返しできません。

事前申し込みは 10 月 26 日 (金) までに参加登録・振込をお願いいたします。

ただし、自由研究発表者、若手チャレンジ研究会発表者及びラウンドテーブル企画者の方は、9 月 10 日 (月) までにお振り込みください。

①2 日間参加の場合 (要旨集を含む)

正会員	5,000 円
院生会員	3,000 円
臨時会員 (一般)	6,000 円
臨時会員 (院生・学生)	3,000 円

②1 日間のみの参加 (要旨集を含む)

正会員	3,000 円
院生会員	2,000 円
臨時会員 (一般)	3,500 円
臨時会員 (院生・学生)	2,000 円

③要旨集のみ購入 1,000 円

④懇親会費 5,000 円

***当日申込の場合には、1,000 円追加 (懇親会のぞく) になります。**

【振り込み先】

ゆうちょ銀行

口座番号：00920 - 0 - 333631

口座名称 (カナ)：SNE 学会第 2 4 回研究大会実行委員会

(エスエヌイーガツカイダイニジュウヨンカイケンキュウタイ)

他行等から振り込む場合

店名 (店番)： 0 九九 (ゼロキュウキュウ) 店 (099)

預金種目： 当座 口座番号： 0333631

2. 演題募集

◎自由研究発表

- ・特別ニーズ教育の原理・歴史、教育制度・政策、内容・方法、実践、諸外国の動向などに関する個人研究・共同研究の発表を募集します。

◎卒論・修士論文・博士論文等デザイン検討会

- ・卒論・修士論文・博士論文等のデザイン発表を募集します（非会員も発表可です）。
*通常の研究発表は「自由研究発表」にお申し込みください。

◎ラウンドテーブル

- ・特別ニーズ教育の今日的課題に関する報告・討議・情報交換の場の企画を募集します。

■発表・企画の申し込み、要旨集録の原稿提出

・発表・企画の締め切り：2018年8月15日(水)

・発表要旨集の原稿の締め切り：2018年9月10日(月)

- ・学会ウェブサイトアクセスし、参加・発表申し込みフォームに必要事項を入力して下さい。
- ・自由研究発表の筆頭発表者、ラウンドテーブルの企画者は学会員に限ります。非会員で連名発表される方・論文デザイン検討会の発表者は、「臨時会員」としてのお申込みをお願いします。
- ・「発表要旨集原稿執筆作成要項」「発表要旨集原稿様式」は、学会ホームページから入手できます。

3. 受付

17・18日の受付は9:00より行います。16日の詳細は別途お知らせいたします。

4. クローク

クロークは設置いたしますが、小さなお荷物は各自で管理をお願いいたします。

5. 学会関係諸会議

理事会・機関誌編集委員会 11月16日(金) 16:45～ 貝塚市立東小学校構内
詳細は、後日学会事務局より連絡いたします。

6. 昼食

昼食休憩時間を設定しておりますが、タイトなスケジュールとなっておりますのでご注意ください。
17日(土)は学食・キャンパス内ミニコンビニが営業しています。18日(日)は会場から離れたコンビニしかございませんので事前にご用意の上ご来場ください。

7. 駐車場

キャンパス内に駐車スペースがございますので、自家用車でお越しいただけます。キャンパス近隣のコンビニ等への無断駐車は止めていただきますようお願いいたします。16日(金)の前日企画は公共交通機関にてお越しください。

8. 宿泊

大阪府内、特に関西空港駅、りんくうタウン駅、日根野駅、天王寺駅周辺には宿泊施設がありますが、大阪府内は旅行客の激増により宿の確保が難しくなっています。各自、早めに予約状況を確認していただきますようお願い致します。

研究発表者・ラウンドテーブル登壇者へのご案内

- * 発表者・登壇者はセッション開始 15 分前までに参加受付をお済ませください。
- * 開始前に発表に関する諸注意等のご案内をいたします。
- * 研究発表者は研究会開始前に PC 等の動作確認を行ってください。
- * 研究発表の発表時間は一演題ごとに発表 15 分、質疑 5 分です。
- * 会場ではプロジェクタの使用が可能です。パソコンを使用される場合はご持参ください。
- * 補足資料の配布が必要な場合は、事前に発表者が必要部数（40 部程度、各自判断）を用意してください。当日、会場で印刷を行うことはできません。

教育講座、シンポジウム I・II 関係者へのご案内

- * 関係者は開始前にシンポジウム開始前に打ち合わせを行います。打ち合わせ時間と会場は追ってご案内いたします。
- * PC のご用意は各自でお願いしておりますが、ご事情があればご相談下さい。
- * 会場ではプロジェクタの使用が可能です。パソコンを使用される場合はご持参ください。
- * 事前にお送りいただく講演資料のうち配布可能なものは、要旨集に収録いたします。資料の提出締切は各シンポジウム担当者より別途ご案内いたします。当日、実行委員会及び会場で別途に配布・印刷を行うことはできませんのでご了承ください。

プログラム概要

【実行委員会企画】特別ニーズ教育学を現場で探るスタディツアー（午前）

大阪少年鑑別所・法務少年支援センター（堺市）見学ツアー

本企画は法務省矯正局少年矯正課の全面的協力のもと、16 日午前企画および 17 日午後企画を連動企画として、矯正教育の現場から多様な立場の方々と特別ニーズ教育学を巡る企画です。

施設紹介、現在の矯正教育の動向や学校教育等との連携についてのミニレクチャーを予定しています。施設の受け入れには申し込み順の人数制限を設けています。ご希望の方はお早めにお申し込みください。

- ①法務省大阪矯正管区第三部長 小林万洋氏（調整中）
- ②大阪少年鑑別所職員（調整中）
- ③大阪法務少年新センター職員（調整中）

【実行委員会企画】特別ニーズ教育学を現場で探るスタディツアー（午後）

貝塚市立東小学校授業参観・公開事例検討会

本企画は、子どもの個人情報保護を条件にしつつも、特別ニーズを有する子どもの「ありのまま」の姿を見つめ、学校教育の現場から、多様な立場の方々と共に特別ニーズ教育学を巡る企画です。貝塚市教育委員会と貝塚市立東小学校の全面的協力のもとに行います。

なお、貝塚市の全小学校・中学校の特別支援教育コーディネーター研修（約 30 名）および貝塚市立東小学校全教職員研修（約 30 名）も兼ねています。学会員の参加は、申し込み順に 50 名限定となっています。お早めにお申し込みください。

◆授業参観（45 分）多様な教育的ニーズを有する子どもを受け入れる日常の見学

◆基調講演（30分）：現代の子どもの生きにくさと特別ニーズ教育

演者：学会代表理事・東京学芸大学教授 高橋智氏

◆公開事例検討会（110分）

コーディネーター：

学会理事・立命館大学准教授 田部絢子（貝塚市教育委員会 特別支援教育専門家チーム）

登壇者：

- ①学会代表理事・東京学芸大学教授 高橋智氏
- ②学会副代表理事・東京学芸大学教授 加瀬進氏
- ③法務省大阪矯正管区第三部長 小林万洋氏
- ④貝塚市立東小学校校長 深井利恵子氏
- ⑤貝塚市立東小学校特別支援教育コーディネーター 葭川氏？

【実行委員会企画】ワークショップ

車いすハンドボール・ボッチャ体験講習会／大体大キャンパス内交流合宿

本企画は、主に学生・若手参加者の交流の機会として、17日の地域公開講座及び18日の若手会員企画との連動企画として実行委員会から提案するものです。大学キャンパス内の体育館とセミナーハウス（宿泊施設）を利用して、車いすハンドボールの指導者である大阪体育大学・曾根裕二先生によるワークショップと宿泊交流会を開催します。

参加希望者は事前予約です。運動着を持参してください。講習会のみでの参加もできますのでふるってご参加ください。宿泊者は1泊2000円を当日、別途徴収いたします。

【実行委員会企画】公開教育講座

「すべての子ども（大人）に届けたいパラリンピックの楽しみ方、学び方」

演者：マセソン美季

（日本財団パラリンピックサポートセンター推進戦略部プロジェクトマネージャー、
長野パラリンピック金メダリスト、カナダ在住）



コーディネーター：曾根裕二

大阪体育大学教育学部准教授・パラリンピック日本選手団（ボッチャ）コーチ

【演者紹介】

東京都出身。小中学校で競泳、高校と大学で柔道に励んだ。体育教員を目指して入学した東京学芸大学1年の時、自転車柔道の朝げいこへ向かう途中で、わき見運転のダンプカーにはねられた。

入院中から車いすの陸上競技を始め、退院後、自宅に近い東京都多摩障害者スポーツセンターに通った縁などから、長野パラのアイススレッジスピードレースの選手選考会に参加した。長野パラリンピックのアイススレッジスピードレース（そり型スピードスケート）で金3個、銀1個のメダルを得たパラリンピアン。

大会後、「障害者のスポーツをもっと学びたい」と米国イリノイ州に留学した。スレッジレースは次の02年ソルトレークシティ・パラで実施競技から外れ、その後は講演活動や原稿執筆などで、熱心に情報を発信し続ける。

現在は、パラスポーツを支援する日本財団パラリンピックサポートセンター（東京・赤坂、パラサポ）スタッフとして、家族と住むカナダとの往復をしている。国際パラリンピック委員会（IPC）公認の子ども向けパラリンピック教材「I'm POSSIBLE（アイム・ポッシブル）」の開発チームの一員。昨年、小学生版第1巻が完成し、全国の小学校と市区町村教委の計約2万5000カ所に配布のほか、インターネットでも入手できる。続編や中高生版も制作中。

【実行委員会企画シンポジウムⅠ】

子どもの発達支援ニーズをどのように受け止め、支えるのか —学校と家庭が連携して子どもを支えるには—

企画趣旨

特別支援教育が制度化されて11年が経過し、支援体制の整備や教育実践の蓄積が進められる中で、障害・疾患にとどまらず、多様な発達上の課題・困難と支援ニーズを有する子どもの存在が明らかになってきました。障害・疾患、学校不応、不登校、家庭の養育困難、非行等の一人ひとりの発達上の課題・困難を早期に発見し、個々の支援ニーズに即した発達支援を行なっていくには、学校と家庭が互いに捉えている子どもの姿や願い、課題を共有し、連携していくことが不可欠です。

一方、多様な発達上の課題・困難と支援ニーズを有する子どもの保護者は、子育てを通して、親自身も悩み、戸惑い、苛立ち、周囲にそのことを相談できずに寂しさや孤立感、疎外感などを抱いている例が少なくありません。また、子どもの様子が気になっていても、すぐに発達上の課題・困難と支援ニーズとしてとらえることは難しく、相談・支援機関に繋がるまでに長い時間を要したり、学校と家庭の連携の際に「ズレ」が生じることも少なくありません。

多様な発達上の課題・困難または「生きづらさ」と支援ニーズを有する子どもを支援していくために、「家庭と学校」が「子どもの発達支援ニーズをどのように受け止め、支援・協働していくのか」を、学校教育・支援者と保護者の視点から議論したく、本シンポジウムを企画しました。

日頃の教育実践や家庭・保護者・地域との関わりについて、可能な限り子どもや保護者の声・姿を聞かせていただけるような構成でお話しいただく予定です。

司会 高橋智氏 学会代表理事・東京学芸大学教授

話題提供

①藤井清司氏 堺市立三原台中学校教諭

障害の有無にかかわらず、現代の子どもたちが抱える生きにくさや発達上の困難への支援のためには学校と家庭の連携・協働が不可欠です。家庭と学校がともに子どもの発達上の困難に向き合い、子どもの発達を支えていくために大切になる鍵を「眠育」の取り組みを通してお話しいたします。

②副島賢和氏 昭和大学大学院保健医療学研究科准教授

院内学級の親の不安・孤立・悩みをどう支えるか、在籍校と親と子をつなぐ院内学級の姿、同じ境遇の親同士をつなぐ支援など。「こどもの病気」と「家族生活の変化」、「将来への見通し」などに戸惑い、悩み、なお向き合う親子の心をどのように支えていくのか、院内学級の実践を通してお話しいたします。

③大高美和氏 NPO 法人ゆめのめ代表（障害児デイサービス事業所等）・管理栄養士・重症心身障害児保護者
専門家、当事者保護者、ピア・サポートの立場から、ご自身の経験や現在の活動の広がりについてお話しいたします。

④夷子綾子氏 放課後等デイサービス職員・知的障害者保護者

支援者、当事者保護者、ピア・サポートの立場から、ご自身の経験や現在の活動の広がりについてお話しいたします。

指定討論 和中克仁氏 貝塚市教育委員会教育部学校教育課参与

【実行委員会企画シンポジウムⅡ】

子どもの発達支援ニーズをどのように受け止め、支えるのか —多様な生きづらさから子どもの発達ニーズと支援の鍵を探る—

企画趣旨

現代の急激な社会構造の変化、家庭の経済的格差や養育困難の拡大のなかで、不安・緊張・恐怖・ストレス等が複雑に絡み合い、自律神経失調症・心身症、抑うつ・自殺、不登校・ひきこもり・中途退学などの心身の発達困難、いじめ・暴力・被虐待、触法・非行などの多様な不応を有する子どもへの支援が喫緊の課題となっています。これらの課題は決して特殊ではなく、子ども全体の問題としてとらえることや「子ども

の育ちと発達の貧困」の解消が第一義的な課題となっています。

子どもたちの置かれている状況は様々ですが、子ども・若者が多層的な発達困難に追い込まれていく現状のなかで、障害の診断・判定はないものの支援が必要な子ども、家庭の養育環境が不安定な子ども、児童福祉施設等入所の子ども、非行・触法等の課題がある子どもなど、抱える想いや生きづらさに気づかれにくく、早期の介入・発達支援が届きにくい子どもを孤立させず、「発達ニーズをどのように受け止め、支援していくのか」を、学校教育と他領域の協働の視点から議論したく、中間集会シンポジウムから継続して本シンポジウムを企画しました。

日頃の教育実践や家庭・保護者・地域とのかかわりについて、可能な限り子どもや保護者の声・姿を聞かせていただけるような構成でお話しいただく予定です。

司会 加瀬進氏 学会副代表理事・東京学芸大学教授

話題提供

①戸村康樹氏 貝塚市立第四中学校 教諭（前任校：児童心理治療施設併設の中学校分教室）

ご勤務された児童心理治療施設併設の中学校分教室等におけるご経験・教育実践を軸に、多様な生きづらさを抱える生徒に対し、学校教育が大切にすべき点および他領域との連携、進路指導等についてお話しいただきます。

②山崎一生氏 和歌山県立和歌山東高等学校 校長（2008～文科省モデル指定校）

高等学校におけるご経験・教育実践を軸に、多様な生きづらさを抱える生徒に対し、学校教育が大切にすべき点および他領域との連携、進路指導等についてお話しいただきます。

③的場恵美氏 関西福祉大学金光籐陰高等学校 養護教諭

高等学校の養護教諭としてのご経験・教育実践や大阪私学カウンセリング研究会の取り組みを軸に、多様な生きづらさを抱える生徒に対し、学校教育が大切にすべき点および他領域との連携についてお話しいただきます。

④小山定明氏 法務省矯正局 少年矯正課長

発達障害や被虐待などの発達上の困難を抱える少年院等在院者の実態と、新たに取り組まれているガイドラインやN3課程の目指す点、移行支援（学校教育との繋がり）や法務少年支援センターによる予防的支援等についてお話しいただきます。

指定討論 富田充保氏 相模女子大学教授

【理事会企画】

若手チャレンジ研究会／ 卒論・修士論文・博士論文等デザイン検討会

理事会企画として、中間集会「若手チャレンジ研究会」に続き、学部生や院生の会員の方を含め、研究活動を開始された特別ニーズ教育若手研究者向けの企画を実施します。

①学会員ニーズ調査の結果を報告し、今後の学会への期待や要望について考えます。

②若手会員の研究分野・方法を横断した交流の場を設け、研究活動や留学、就職等に関する情報交換を行います。

③「卒論・修士論文・博士論文等デザイン検討会」を開催します。

参加いただいた会員の方々の意見を取り入れながら、若手研究者の交流の場を継続・拡充していきたいと考えています。ご参加をお待ちしています。

【理事会企画：課題研究Ⅰ】

マイノリティの視点からみた特別ニーズ教育－「性同一性障害」に焦点を定めて

企画趣旨

性同一性障害（GID）当事者の日野由美氏、中川未悠氏からの実践と体験をふまえた課題提起、指定討論者・伊藤修毅からの提起などを交え、性同一性障害を中心とする性的マイノリティの過去・現在・未来の課題を、特別ニーズ教育に引きつけて探究する。

周知のとおり文科省は、2015年4月に「性同一性障害に係る児童生徒に対するきめ細かな対応の実施等について」、2016年4月に「性同一性障害や性的指向・性自認に係る、児童生徒に対するきめ細かな対応等の実施について（教職員向け）」を全国の学校に向けて通知している。そこでは、支援事例として、「自認する性別の制服・衣服や、体操着の着用を認める」、「（修学旅行等において）1人部屋の使用を認める。入浴時間をずらす」等が紹介されている。これらは、仮に表層的な対応であったとしても、当事者の運動やねがいを反映させたものであり、進歩的事象であることは言を俟たない。今後、これらの実践や認識を、ニーズを有する全ての児童・青年に行き届かせることが課題となる。

日野由美氏は、北海道苫小牧生まれの62歳。性同一性障害についての認識や理解のない時代を生きてきたという歴史の体現者であり、当事者活動を切り開いてきた先駆者である。さらに高校教師として、性的マイノリティに対する差別・排除・無理解の実相を学校教育の内側から見てきた観察者である。この多重性において、日野は稀有な存在である。

中川未悠氏は、2018年4月に神戸の大学を卒業したばかりの新社会人。大学3回生の春休みに性別適合手術を受ける。中川はこの経緯を含め、サブタイトルに「爽やかLGBTsドキュメンタリー」を謳う「女になる」（監督／田中幸夫）の被写体として、自身の〈生〉と〈性〉のあり方を広く社会に問う道を選択する。すなわち、代弁者としての役割を自ら買って出た新世代の当事者である。

企画 猪狩恵美子（福岡女学院大学） / 二通諭（札幌学院大学）

司会 二通諭（札幌学院大学）

話題提供者 日野由美（GID当事者）

中川未悠（GID当事者）

指定討論者 伊藤修毅（日本福祉大学）

【理事会企画：課題研究Ⅱ】

改めて「特別ニーズ教育とは何か」

企画趣旨

本学会設立の趣旨には、特殊教育に関連する各学会が心理学的研究に偏重していることや、当時の特殊教育政策に対する批判的意識が希薄であることに対する批判等の受け皿として、障害児教育学の発展を志向することが含まれていました。サラマンカ宣言も大きな刺激となり、障害のある子どもだけでなく、広く特別な教育的ニーズをもつ子どもの教育を対象とする研究の必要が自覚されてきました。

サラマンカ宣言が「インクルーシブ教育」「インクルーシブな学校」を提唱したにもかかわらず、従前の統合教育（インテグレーション）とインクルーシブ教育との違いや、特別ニーズ教育“Special Needs Education”の定義、理念、概念について、共通理解は必ずしもされてこなかったのではないかと考えられます。“Special Needs Education”は、特別な場に限定されず、通常の教育の場においても特別なケアを保障するものであるとするのが素朴な理解と考えられますが、特別ニーズ教育は通常学級における特別な指導・支援を意味するという提起や、能力原理に代わる必要原理に基づいた、「ニーズ教育」があり得るとして、“Special”な“Needs Education”についての提起なども展開されてきました。

21世紀に入り、特別支援教育についての議論が活発となりましたが、特別ニーズ教育と特別支援教育の区別、インクルーシブ教育と特別ニーズ教育の区別等も明確になりにくい現状があります。

そのような動向を踏まえて、本課題研究の一年目では、本学会のこれまでの研究活動を踏まえ、「特別ニーズ教育とは何か」、何を指すのか、インクルーシブ教育や日本の特別支援教育との関係はどうあるのか等について、整理する機会としたいと考えます。

企画

荒川智 学会理事・茨城大学教授 / 村山拓 学会理事・東京学芸大学准教授
司会
村山拓 学会理事・東京学芸大学准教授
話題提供
村山拓 学会理事・東京学芸大学准教授
「特別ニーズ教育」研究の近年の動向（仮）
渡部昭男 学会理事・神戸大学教授
「『特別なニーズ』と『ニーズ教育』の関係」（仮）
指定討論 調整中

【実行委員会企画：懇親会】

懇親会

大会一日目の夜には、「がんこ岸和田五風荘」にて懇親会を開催いたします。岸和田城の壕端に佇む2,400坪を越す広大な敷地のお屋敷で和食をお召し上がりいただきながら、ご参加の皆様との親睦を深めていただければ幸いです。参加ご希望の方には事前予約・事前振込をお願いいたします。原則としてキャンセルの払い戻しはできませんのでご了承ください。

会場： がんこ岸和田五風荘（〒596-0073 大阪府岸和田市岸城町18-1 / TEL 072-438-1162）

送迎： 大学から懇親会会場までは送迎バスを手配します。

大学～（30分）～がんこ岸和田五風荘

がんこ岸和田五風荘～（3分）～南海電鉄・岸和田駅～（10分）～JR阪和線・東岸和田駅

参加費： 5000円・事前予約／振込制 会場の関係で先着60名限定です。



日本特別ニーズ教育学会第24回研究大会（大阪大会）実行委員会

実行委員長 後上鐵夫（大阪体育大学教育学部）

副実行委員長 松崎保弘（大阪体育大学教育学部）

実行委員 曾根裕二（大阪体育大学教育学部）

実行委員 田部絢子（立命館大学産業社会学部）

第24回研究大会に関するお問い合わせ先

◎実行委員会事務局

立命館大学産業社会学部 田部絢子研究室

〒603-8577 京都府京都市北区等持院北町56-1

TEL：075-466-3230（研究室直通）

メール taikai@sne-japan.net

*ご連絡はできる限りメールでお願いいたします。